平成23年 新司法試験 最新合格者講義 OPEN

■いつも途中答案になってしまう、いつも答案の分量を間違えてしまう方へ

デキる 答案構成マニュアル

東京本校 11/4（金） LIVE
辰巳各本校 11/9（水）～ VB
通信部 発売開始 11/16（水）

講座仕様

回数 全３回・９時間

科目 公法系・民事系・刑事系

教材
・講師作成オリジナルレジュメ
・講師作成答案構成集
・講師作成再現答案

講師 平成 23 年 新司法試験合格者
包城　偉豊 講師

Profile

慶応義塾大学法科大学院既修者コース修了。1 回目の受験となった平成 22 年（第 5 回）は論文不合格（総合 2969 位）。不合格の原因は漫然と問題を解いていた自分の姿勢にあると分析し、その反省を踏まえ、2 回目の試験に向けた勉強では問題演習を軸とし、答案の組み立て、論理の積み重ねを意識した勉強を徹底的にこなし、2 回目の受験となった平成 23 年新司法試験にて、実に、2800 番上げての合格 (総合 153 位) を果たす。

少しの意識の違いで論述は大きく変わることを伝えるべく、辰巳の教壇に立つことを決意する。

●スケジュール

東京本校		辰巳各本校		通信部
LIVE		VBﾌﾞｰｽ		発送日
	時間割	利用開始	利用終了	以降随時
11/4(金)	10:00-13:10	11/9(水)	12/9(金)	11/16(水)
11/7(月)	10:00-13:10			
	14:00-17:10			

※辰巳各本校…東京・横浜・大阪・京都・名古屋・福岡本校

●受講料（税込）

通学部			通信部				
講座ｺｰﾄﾞ	辰巳価格	代理店価格	DVDｺｰﾄﾞ	MDｺｰﾄﾞ	ｶｾｯﾄｺｰﾄﾞ	辰巳価格	代理店価格
11NA6＊	¥16,000	¥15,200	R-300R	R-300M	R-300	¥17,600	¥16,720

※注 1 通学部は、受講会場（東京校・大阪校など）を申込段階でお選びいただきます。
※注 2 通信部は、媒体の別（ＤＶＤ又はカセットテープ又はMD）をお選びいただきます。
MDはＭＤＬＰ対応機種のみ、ＤＶＤはＤＶＤ－Ｒ対応機種でのみご利用いただけます。ご自身のプレーヤーをご確認のうえお申し込み下さい。
※注 3 注 1 での選択を、上記受講料表中の「講座コード」の「＊」の箇所に下記表の会場コードによって記入して下さい。
例）東京校でLIVE又はVideoBoothで受講の場合→「講座コード11●●●＊」の「＊」に「H」を当てはめ→「11●●●H」

講座コードの「＊」に当てはめる、通学部の会場選択・通信部の媒体選択の記号の一覧表

通学 東京校はH	通学 横浜校はY	通学 大阪校はK	通学 京都校はM	通学 名古屋校はN
通学 福岡校はF	通学 宇都宮校はU	通学 岡山校はL	通学 高松校はA	通学 鹿児島校はZ

途中答案の原因は、問題文の読み方と答案構成のやり方！

途中答案になってしまうの原因は何でしょうか。そもそも知識が不足している人もいるでしょう。しかしながら、多くの方は法科大学院での学習や新司法試験対策としての学習で、ある程度の基本的な知識を持っているはずです。答えは…「書くべきこと」を、「必要な分量」で書くことができていないからではないでしょうか。いたってシンプルな答えですが、これができていない受験生は多くいます。「書くべきこと」とは何なのか？「必要な分量」とは何を基準に、どのように判断すべきなのか？本試験の緊張感の中、本講座で身に付けた正しい問題文の読み方と正しい答案構成の仕方を駆使し、途中答案を駆逐しましょう。

論文を「うまく」書くには、答案構成一発で決まるっ！

本講座の核は、問題文の読み方と答案構成の仕方です。いたってシンプルな講義です。

論文を「うまく」書くには答案構成一発で決まることを実感できます。本講座では、答案がスラスラ書けるようになり、途中答案になる可能性を最小限に食い止める方法を教えます。なぜ答案構成一発で決まるのか？新司法試験の論文式試験で必要な段階は、事案を①「読む」→②「理解する」→③「整理する」→④「解決策を探る」→⑤「解決策を表現する」ことです。①から④の段階は、問題文を読み、答案構成を作成することに尽きます。後は⑤の段階、すなわち、答案用紙に向かってひたすらに・時間内に書き切るだけです。本講座を受講後は、問題文を読み、答案構成をすることは別個の段階ではなく「一体的・一連の段階」であることを改めて実感でき、いかに「重要な」段階なのかを実感できます。実感するだけでなく、これからの本格的な答練シーズンを前に、この訓練の重要性を再認識できるはずです。

●講師メッセージ

私の経験からして、司法試験合格に必要な知識はロースクールを修了する段階で８割方身につくものと思います。しかし、実際には知識があっても、受験者の４分の３程度の人は不合格者となってしまいます。大事なことは、知っている知識を基礎としながら、具体的な問題の中で争点となるポイントを把握し、整理し、ロジカルに解答していくということです。

しかし、本試験では各科目２時間という制限時間があり、この時間内に解答を書ききらなければならないことから、答案構成の段階で問題点の把握、その整理、おおよその結論等を組み立て、時間内に書ききるための設問ごとのバランス等をしっかりとイメージしなければなりません。特に本試験レベルの難しい問題では、このような作業がしっかり出来ないまま解答しようとしても題意に沿わない、あるいは論述の流れやバランスを失した答案、最悪な場合途中答案となってしまう可能性が高く、それだけで合格答案から離れていく恐れがあります。そのため、答案構成は極めて重要な意義を持っています。

私自身、初受験で挑んだ平成 22 年度の本試験では各科目ともどのような答案を書けば良いのか、漠然としかイメージがつかない内に、あるいはそのようなイメージすら持てない内に答案を作成してしまった結果、特に民事系、刑事系で平均点を下回るか下回らないかという合格水準から遠く離れた点数を得点し、不合格となってしまった苦い経験があります。それだけに、答案構成の段階で答案の具体的なイメージを持つことが出来るか否かということの重要性は身に染みて実感しています。そして、本年度本試験ではしっかりと構成で答案のイメージをすることができた結果 (無論、全科目、いずれも完璧にできたとは言いません)、相応の得点をすることができたことからも、いわゆる答案構成をしっかりすることができればここまで違いが顕れることを実証できました。

私の講義では、総論として各科目の論述、構成のポイントを示しつつ、各論で主に今年の本試験問題、私の実際に書いた答案構成用紙と再現答案を素材として、今年の本試験で、構成の段階においてどのようなことを考え、それを論述し、昨年度の試験から 2800 番近く順位を上げていくことができたかという一例を示していきたいと思います。

私はロースクールの GPA も 2 点台半ばであり、試験も一回失敗しており等、決して抜群に 「デキる」タイプの人間ではありません。それでも、ほんのちょっとした意識改革さえすれば試験でそれなりの結果を出すことができることを受験生の皆さんに伝えていきたいと思います。

2011 年初受験で失敗してしまった方、2 回目の受験で失敗した方、未受験だけれども論文試験に不安のある方の持つ不安を少しでも解消することができれば幸いです。